

## 1 事業の概要

前橋空襲で米軍がターゲットにしたとされる「爆撃照準点」に目印としてマンホールを設置するとともに、中央通りのグリーンウォークに説明板を設置する。

また、当時の町名として使用されていた「桑町」の案内板についても併せて設置する。

## 2 マンホール設置のいきさつ

歴史まちづくり計画に位置づけられている「ヒストリックランドマーク整備事業」の一環で、なおかつ、本年度中に開館が予定されている「前橋空襲と復興資料館」の関連事業として実施した。

桑町案内板については、旧町名案内板設置の皮切りとなるもので、今後も一部の既存道路案内板を活用し、旧町名案内板として改修を進める予定

## 3 完成披露会の概要

### (1) 日時・場所

令和6年11月30日(土) 午前10時から20分程度 中央通りグリーンウォーク前

### (2) 参加者

小川市長、歴史まちづくり協議会委員、ヒストリックランドマーク専門部会委員

「戦禍の記憶をたどり前橋空襲を語り継ぐウォーキングツアー」(文化国際課主催)参加者

### (3) 内容

- ・爆撃照準点説明板及び旧町名(桑町)案内板のお披露目
- ・爆撃照準点マンホールのお披露目及び打ち水の儀
- ・手島仁氏((一財)群馬地域学研究所代表理事)による解説

※設置箇所、デザイン等については次頁のとおり

## 4 その他

本事業は、一般財団法人ぐんま食と歴史文化財団の助成金(100%充当)を活用して実施した。

## 5 配置イメージ



- 桑町案内板及び爆撃照準点説明板については、それぞれ中央通りのグリーンウォークエントランスの左壁面に設置する。
- マンホールについては、丁字路内にある下水道用のマンホールを交換する形で設置する。

### ※爆撃照準点とは

米軍が爆撃地点を指定する際に、いくつもの区画で同時に火災が発生するような地点を指定し、そこを目掛けて空爆を行ったとされ、その地点を爆撃照準点(又は爆撃中心点)と呼ぶ。

日本全国では65都市にあるとされ、仙台市には銘板、長岡市には碑が設けられている。

## 6 デザインイメージ

※各文面や画像については、設置に併せて市HP上で公開する。

～旧町名を記憶する場～

# 桑町

くわまち

現在の中央通りを中心とする一帯はかつて「桑町」と呼ばれていた。  
江戸時代から昭和41年(1966)まで

「前橋風土記」(貞享元年)に見える下之町が豎町・横町(横山町)・桑町に分かれて成立。町内に桑の太木があったことが町名の由来であると言われている。

江戸時代の「祇園祭り」では、藩主松平大和守家から「巴」の紋を賜ったが、松平家が「右巴」であったことから、「左巴」にして桑町の紋として使った。桑町の山車(祭屋台)の人形は牛若丸であったが、日露戦争後に神武天皇に替わった。

明治27年(1894)、総社の天狗岩用水を利用した前橋電燈株式会社が創設されたとき、率先して電気をつけたのは桑町であった。明治40年(1907)刊行の「前橋繁昌記」によると、町内に土木2、工業2、衣服9、荒物12、雑貨9、料理4、飲料4、乾物青物など8、砂糖並菓子6、医療4、製糖銭湯1の商家が見える。明治40年頃まで桑町市でにぎわったという。

桑町は連雀町、紺屋町、横山町、豎町などに囲まれた小地域だが、前橋切っの目貫通りとなり、代表的な商店が立ち並んだ。中心六商店街が形成されると、ライバル商店街との競争から「ネオンアーチ」を共同事業として完成させ、桑町通りは「鈴蘭街」と呼ばれる賑わいを築いた。

昭和10年頃の桑町通り

設置：令和6年11月 前橋市「前橋市歴史民俗資料館特向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業」  
※この事業は、「くまふる歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。

～前橋空襲を語り継ぐ場～

## 前橋空襲の爆撃照準点(中心点)

【前橋空襲を語り継ぐ爆撃照準点】  
前橋市がアメリカ空軍 B29 の空襲を受けたのは、アジア・太平洋戦争終結の直前、昭和20年(1945)8月5日午後10時28分から6日午前0時8分であった。

爆撃照準点をめがけて約18万発もの焼夷弾が投下され、この1回の空襲により市街中心部約80%が焦土と化し、約600人の死者を出した。右の図は、前橋空襲に使用された「リト・モザイク(爆撃中心点参照用集成図)」である。前橋空襲で指定されたことされる「102072」という数字は、最初の3桁が機座標、次の3桁が縦座標を表す。

実際に爆撃地点を指定する際のルールによれば、「いくつもの火災区画で同時に火災が発生するようになるべく人工あるいは天然の防火帯が交わる地点で、明瞭に確認できる特徴のある点」とされ、通常は道路の交差点であった。

このルールに従い縦横の交点を求めると、市道02-390と中央通りの交差点、すなわち、丁字の交差点(丁字路)など推定できる(工藤洋三氏の見解より)。

大田立公文書館

設置：令和6年11月 前橋市「前橋市歴史民俗資料館特向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業」  
※この事業は、「くまふる歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。

